## 平成30年度 業務実績報告書

### 令和元年6月



#### 目 次

【法人の概要】	
1 基本的情報	
2 役員及び職員の状況	2
3 基本的目標(中期目標前文)	2
【項目別の状況】	3
【業務実績の概要】	5
〈項目別 業務実績〉	11 (別冊)

#### 【法人の概要】

#### 1 基本的情報

法人名称	地方独立行政	2方独立行政法人徳島県鳴門病院					
所在地	徳島県鳴門市	島県鳴門市撫養町黒崎字小谷32番					
設立団体	徳島県						
設立年月日	平成25年4月	1日					
設置する病院	名称	徳島県鳴門病院					
	所在地	徳島県鳴門市撫養町黒崎字小谷32番					
	病床数	307床(一般病床:うちドック6床)					
	14診療科 (内科·循環器内科·小児科·外科·整形外科·脳神経外科·皮膚科·耳鼻咽喉科·眼科·産婦人科· 泌尿器科·放射線科·麻酔科·形成外科)						
	併設施設等	健康管理センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター					
設置する看護師養成所	名称						
	所在地	徳島県鳴門市撫養町斎田字見白36番地1					
	課程等 3年課程(1学年定員40名)						

#### 2 役員及び職員の状況

役員の状況					
	役 職 名	氏 名	任	期	備 考
	理事長	犬伏 秀之	平成29年4月1日	~ 平成33年3月31日	元 徳島県農林水産部長
	副理事長(非常勤)	小森 將晴	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	日本赤十字社徳島県支部事務局長
	理事	邉見 達彦	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	病院長
	理事	堀内 宣昭	平成30年4月1日	~ 平成31年3月31日	副院長
	理事	阿川 昌仁	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	副院長
	理事(非常勤)	島田清	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	弁護士
	理事(非常勤)	濱尾 重忠	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	徳島県経済成長戦略アドバイザー
	監事(非常勤)	島内 保彦	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	弁護士
	監事(非常勤)	原 孝仁	平成29年4月1日	~ 平成31年3月31日	公認会計士
職員の状況	職員数 正規職員	433人(病院長1名	・副院長2名含む)	嘱託職員108人 (平	成30年4月1日現在)

#### 3 基本的目標(中期目標前文)

地方独立行政法人徳島県鳴門病院は、平成25年4月の法人設立以降、県北部をはじめ香川県東部や兵庫県淡路島地域の政策医療を担い、地域の中核的かつ急性期病院として重要な役割を果たしている。

また、看護専門学校、健康管理センター、訪問看護ステーション及び居宅介護支援センターを併設し、地域全体で治し、支える「地域完結型」の医療提供体制の確保に取り組んでいるところである。

急速に進む人口減少や少子高齢化など社会構造が変化する中、医療需要の増加や疾病構造の変化、それに伴う県民の医療に対する意識やニーズの変化など、医療を取り巻く環境は大きく変わりつつある。

こうした中、「徳島県地域医療構想」では、地域にふさわしい医療機能の分化・連携や地域の医療提供体制の将来あるべき姿が示されるなど、本県の医療政策は大きな転換期を迎えている。

地方独立行政法人徳島県鳴門病院においても、地域にふさわしい良質かつ適切な医療を提供し、経営の効率化を図るとともに、「徳島県地域医療構想」を踏まえ、地域の医療提供体制について果たすべき役割を明確化し、在宅医療の推進や地域包括ケアシステムの構築に向けて積極的な役割を果たす必要がある。

このため、第2期中期目標を次のとおり定めることとし、地方独立行政法人制度の特徴である自主性や効率性を十分に発揮しつつ、地域の医療水準の更なる向上や地域住民の健康増進につながるよう地方独立行政法人徳島県鳴門病院の基本となるべき方向性を示すこととする。

特に、運営に当たっては、「徳島県地域医療構想」をはじめとする徳島県の医療行政施策にのっとり、地域づくりとしての医療を推進し、地域の中核的病院として更なる公的役割を担うとともに、地域住民から信頼される病院を目指していくことを求めるものとする。

#### 【項目別の状況】

#### <項目別一覧>

\境日別 見/				
大項目	H30		29	項目
中項目	口口	己	宗評	別の
小項目	型	and the second	一番	ヘ゜ーシ゛
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に 関する目標を達成するための取組	-	_	_	_
1 診療事業	_	_	_	_
(1) 良質かつ適切な医療の提供	В	В	В	11
(2) 患者の視点に立った医療の提供	В	В	В	14
(3) 救急医療の強化	В	В	В	16
(4) がん医療の充実	В	В	В	17
(5) 生活習慣病に対する医療の促進	В	В	В	19
(6) 産科医療や小児医療の充実	В	В	В	20
(7) 特徴を発揮した医療の推進	В	Α	Α	21
2 地域医療・介護支援	_	_	_	_
(1) 医療・介護連携の充実	В	В	В	22
(2) 地域住民の健康維持への貢献	Α	Α	Α	24
3 災害時における医療救護	_	_	_	_
(1) 医療救護活動の拠点機能	В	В	В	25
(2) 他地域における医療救護への協力	В	В	В	26
4 人材の確保・養成	_	_	_	_
(1) 質の高い医師の確保・養成	С	В	В	27
(2) 医療従事者の確保・養成	В	В	В	28
(3) 看護専門学校の充実強化	Α	Α	Α	30

	H30年度 自己評価	H29年度 自己評価	H29年度 県評価
A評価	3	4	4
B評価	19	20	19
C評価	4	1	2
計	26	25	25

大項目		H30		29	項目
中耳	頁目	己	口己	宗評	別の
	小項目	証	三型	価	ヘ゜ーシ゛
	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための 取組		1	-	_
1	業務運営体制	_	_	_	_
	(1) 効果的な業務運営の推進	В	В	В	31
	(2) 事務職員の専門性の向上	В	В	В	32
	(3) 人事評価システムの構築	В	В	В	33
	(4) 資格職を支援する職員の充実	В	_	_	33
2	業務運営方法	_	_	_	_
(	(1) 県立病院との連携	Α	Α	Α	34
	(2) 収入の確保	С	В	В	35
	(3) 費用の抑制	С	В	С	37
第3	予算、収支計画及び資金計画	С	С	С	38
第4	短期借入金の限度額	В	В	В	42
第5	重要な財産を譲渡し、又は担保しようとするときの計画	_	_	_	_
第6	譲渡金の使途	_	_	_	_
第7	料金に関する事項	_	_	_	_
第8 ·	その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	_	_	_	_
1	施設及び設備に関する事項	В	В	В	44
2	職員の就労環境の向上	_	_	_	_
(	(1) 良好な職場環境づくり	В	В	В	45
	(2) 就労環境の整備	В	В	В	45
3	積立金の処分に関する計画	_	_	_	_

#### <法人の自己評価>

S	年度計画を大幅に上回って実施している(特に優れた実績)
Α	年度計画を上回って実施している
В	概ね年度計画どおり実施している(達成度が概ね9割以上)
С	年度計画を十分に実施していない(達成度が概ね6割以上9割未満)
D	年度計画を大幅に下回っている(達成度が6割未満)

#### <評価委員会の検証>

`	н і інц	XXXV (XIII)
	S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
	Α	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
	В	中期目標の達成に向けて概ね順調に進んでいる
	С	中期目標の達成のためにはやや遅れている
	D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある

#### <第2期中期計画 数値目標>

N 第2 期 中 期 前 一 一							
項目	達成目標 (H32年度)	【参考】 H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	
年間救急患者 受入件数	6, 800件	6, 915件	6, 470件	6, 428件			
年間がん入院 患者延数	12, 500人	12, 174人	12, 966人	11, 981人			
年間紹介率	78. 0%	73. 9%	71. 2%	72. 3%			
年間逆紹介率	95. 0%	95. 6%	106. 2%	99. 6%			
1日平均新規 入院患者数	17. 4人	16. 8人	16. 4人	16. 2人			
稼働病床利用 率	80. 0%	77. 0%	78. 1%	75. 4%			
経常収支比率	100. 0%以上	99. 5%	99. 1%	98. 2%			
医業収支比率	98. 0%以上	97. 3%	97. 0%	96. 0%			

#### <財務・人員>

1W1100 112					
項目	【参考】 H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
経常収益 (千円)	6, 683, 894	6, 847, 464	6, 832, 383		
経常費用 (千円)	6, 720, 673	6, 912, 221	6, 960, 371		
経常損益 (千円)	▲36, 778	▲64, 757	<b>▲</b> 127, 988		
職員数(人) (4月1日時点)	541	544	541		

<sup>※</sup>千円未満を四捨五入

【業務実績の概要】

【業務実績の概要】				
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するための取組状況	H30 自己 評価	H29 県 評価	項目 別の ページ	具体的成果等
1 診療事業 (1) 良質かつ適切な医療の提供 ①地域の中核的かつ急性期を担う病院として、円滑な入院受け入れと適切な時期の退院が行えるよう、ベッドコントロール組織及び専任者(看護局長・次長)を設置した。 ②最適で確実な医療を提供するため、クリティカルパス導入患者の増加に努めたほか、医療安全研修会、感染防止訓練・研修会の実施など医療安全・院内感染対策にも取り組んだ。	В	В	11	①ベッドコントロール専任者が収集した入院患者数、入退院患者予定数、救急入院患者等の情報を、毎朝、管理者、看護局、各病棟間で共有することにより、院内の連携が強化され、より円滑な入退院が可能となった。 ②電子カルテのクリティカルパス登録数が平成29年度1件から平成30年度16件まで増加し、医療の標準化に寄与した。
(2) 患者の視点に立った医療の提供 ①9月に外来待ち時間調査、10月に患者満足度調査を実施し、課題把握と改善に努めた。 ②11月に糖尿病・内分泌センターを新設した。 ③入院予定段階で患者に入院中の治療・検査等の説明を行う早期入院サポートを11月から開始した。	В	В	14	①外来待ち時間調査では、問診や採血などの検査結果の待ち時間の増加の問題に対して、コメディカルが役割分担して診察医師にスムーズな情報伝達が行えるよう改善した。患者満足度調査では、食事内容や味付けの改善要望に対して、嗜好調査やベッドサイド訪問をもとに栄養科での献立検討会で改善を図った。 ②糖尿病・内分泌センター新設により内科患者の待ち時間を短縮した。 ③早期入院サポート開始により、患者側の不安軽減や、病院側のリスク管理が可能となった。
(3) 救急医療の強化 ①救急患者受入数は6, 428人で年度計画「6, 750件以上」を下 回ったが、消防機関との定期的な意見交換や、新たな取組みとして 鳴門消防救急救命士を講師に迎えた災害時の多数傷病者対応研修 会の開催などに取り組んだ。 ②日曜日の小児救急医療体制を維持した。	В	В	16	①消防機関との連携関係の強化により、救急搬送患者の円滑な受入を 行うことができた。 ②日曜日の小児救急医療体制を維持し、救急医療機関としての役割を 果たした。
(4) がん医療の充実 ①腹腔鏡下手術件数は減少したが、人間ドック(日帰り)、がん検診、 乳がん切除と乳房再建の同時施行、外来化学療法件数は増加し た。 ②平成30年度末に高出力・高精度リニアックへの更新を行うととも	В	В	17	①人間ドック、がん検診による、がんの早期発見と、乳がん切除と乳房再建の同時施行、外来化学療法等による、がん治療に貢献した。 ②リニアックの更新により、当院で治療が可能ながん疾患の対象を拡大することができた。
(5) 生活習慣病に対する医療の促進 ①人間ドック(日帰り・2日)件数は年度計画を下回ったが、一般検診件数、透析治療件数は年度計画を達成した。 ②11月に糖尿病・内分泌センターを開設し、専門医・認定看護師等 多職種のチームにより、糖尿病教室・教育入院・フットケア外来等の 一層の充実に取り組んだ。	В	В	19	①人間ドック、一般検診等の実施により、引き続き、生活習慣病の早期発見・早期治療に繋げることができた。透析治療については、平成29年9月から午後透析を開始したことによる治療件数の増加が続いている。②糖尿病・内分泌センターを開設し、患者の状態に応じて、地域の医療機関と連携した治療に取り組んだ。

	H30 自己 評価	H29 県 評価	項目 別の ページ	具体的成果等
(6) 産科医療や小児医療の充実 ①無痛分娩や新生児管理、日曜日の小児医療救急体制を維持した。 ②助産師外来・母乳外来については、平成30年12月までは水曜日のみの実施であったが、平成31年1月から新たに隔週金曜日も実施することとした。	В	В	20	①産科及び小児科の診療体制を維持することで、地域の中核的病院としての役割を果たした。 ②助産師外来・母乳外来の実施日を増やしたことで、患者の利便性が向上し、受診者が平成29年度155人から平成30年度202人に増加した。
(7) 特徴を発揮した医療の推進 ①手の外科手術件数は600件で前年度比47件減少したが、外科と 形成外科が連携した乳がん切除と乳房再建の同時施行件数は13 件で前年度比2件増加した。	В	A	21	①手の外科手術については、手の外科センターとして、引き続き、県内全域のみならず、県外からの救急疾患、紹介患者を受け入れた。 乳がん切除と乳房再建の同時施行手術については、患者の身体的負担の軽減とQOLを高める治療として実施した。
2 地域医療・介護支援 (1) 医療・介護連携の充実 ①地域医療支援病院として地域医療機関との連携強化に取り組んだ。逆紹介率は低下したが、紹介率が上昇し、大腿骨頸部骨折クリティカルパス活用件数、高度医療機器共同利用件数(CT)も増加した。 ②鳴門市板野郡地区相談員実務者会を年3回開催し、在宅療養後方支援病院のネットワーク化を推進した。	В	В	22	①地域医療支援病院として地域医療機関と連携することで、可能な限り、地元で治療を完結できるようにした。 ②在宅療養後方支援病院のネットワーク化を推進し、連携医療機関の在宅療養患者が症状悪化した場合に円滑に当院に入院できる体制を維持した。
(2) 地域住民の健康維持への貢献 ①鳴門市と連携した「地域医療を考えるシンポジウム」、徳島県スポーツ振興財団との共同事業「生活習慣病予防教室」のほか、糖尿病教室、健康相談、栄養相談などを行った。	Α	A	24	①様々な機会を捉えて、職員が無償で医療健康相談等を行い、地域住 民の健康維持に貢献した。
3 災害時における医療救護 (1) 医療救護活動の拠点機能 ①6月、徳島赤十字病院の災害訓練を視察し、8月には安否情報・参集情報入力訓練を実施し災害発生時の初動対応を確認した。3月には、災害時であっても、その医療機能を継続させることができるよう業務継続計画(BCP)の改訂を行った。	В	В	25	①各種災害訓練への参加や業務継続計画(BCP)の改訂等により、県 北唯一の災害拠点病院としての医療救護体制を強化した。
(2) 他地域における医療救護への協力 ①災害派遣チーム(DMAT)の充実に向け、各種研修等に参加した。 また、内閣府主催「平成30年度大規模地震時医療活動訓練」に病院挙げての参加するなど、国や自治体が実施する広域災害訓練に	В	В	26	①DMAT研修への参加等を通じて、災害派遣チーム(DMAT)の技能の 向上と人員体制を充実させることができた。

	H30 自己 評価	H29 県 評価	項目 別の ページ	具体的成果等
4 人材の確保・養成 (1) 質の高い医師の確保・養成 ①医師の学会等への参加を推進した。 ②若手医師の確保・養成については、新専門医制度の連携施設として、麻酔科に医師1名の受入れを実現した一方で、初期臨床研修マッチング結果は0名となった。	С	В	27	①医師の学会等参加により、医療水準の向上を図った。 ②初期臨床研修マッチングO名との結果を受けて、他病院の初期臨床研 修医の勤務条件を分析し、当院の勤務条件の改善を行った。
(2) 医療従事者の確保・養成 ①看護師をはじめ各医療職の専門性の向上に向け、院内外の研修 会等への参加を支援し、専門性の高い資格・認定取得を推進した。	В	В	28	①各部門ごとの主な研修参加、資格取得実績 〈看護局〉糖尿病看護認定看護師教育課程、医療安全管理者研修、 認定歯科衛生士認定 〈放射線部〉PET研修セミナー受講 〈検査部〉日本超音波検査学会学術集会 〈薬剤部〉医療薬学フォーラム 〈リハビリテーション部〉学術論文4本、学術発表30本
(3) 看護専門学校の充実強化 ①県立総合看護学校との間で、看護教員の人事交流を実施したほか、ICTを活用した講演・情報交換会・学生交流会を実施した。 ②6年連続で看護師国家試験合格率100%を達成した。	A	A	30	①看護教員の人事交流により、教員の専門知識や技能が向上した。 ICTを活用した講演等により、学習内容が充実した。 ②6年連続で合格率100%を達成したことにより、看護専門学校の評価 が高まり、優秀な看護学生の確保に繋がるものと考えられる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組状況 1 業務運営体制	自己	H29 県 評価	項目 別の ページ	具体的成果等
(1) 効果的な業務運営の推進 ①年度計画の進捗について、四半期ごと、担当部局・委員会から報告を受けて把握し、理事会、管理者会議、運営会議に報告するとともに、理事長及び院長が各部門長からヒアリングを実施した。 ②顕著な実績をあげた3所属に対して、グループ表彰を実施した。	В	В	31	①ヒアリング実施により、理事長及び院長と各部門長が現状と課題を共有し合い、年度計画の達成や業務の効率化に取り組むことができた。 ②グループ表彰の実施により、職員のモチベーションが向上した。
(2) 事務職員の専門性の向上 ①病院事務に精通し、専門性の高い事務職員を育成するため、各部 署において専門研修等への参加を推進した。	В	В	32	①主な研修参加実績 財務・会計セミナー、医療機関BCP研修会、防火・防災管理講習会、 情報ネットワークセミナー、診療報酬管理研修会、ソーシャルワークスキ ルアップ研修
(3)人事評価システムの構築 ①職員の能力の適正な評価とモチベーションの向上や人材育成に 資する新たな人事評価制度を構築するため、平成29年度に事務局 職員を対象にヒアリングを実施したが、平成30年度は医療技術職員 にも対象を拡大した。	В	В	33	①医療技術職員に対するヒアリング実施により、将来の担当替え等に向けた現状把握を行うことができた。
(4)資格職を支援する職員の充実 ①医療クラーク・看護助手を増員したほか、医療クラークの知識・技 能向上のための定例会開催、看護助手に対する研修の充実等に取 り組んだ。	В	_	33	①医療クラーク・看護助手の増員と知識・技能向上等の取組みにより、医師・看護師等の業務負担を軽減することができた。
2 業務運営方法 (1) 県立病院との連携 ①従来から県立病院と共同交渉を行っている医薬品、診療材料、災害備蓄品に加え、新たに委託業務等も対象とする検討を行った。 ②県立病院が医療総合情報システムを更新したことを受け、新システムの仕様、運用状況について情報収集を行った。	A	A	34	①新たに委託業務等を共同交渉の対象とする検討を行ったことで、相互 理解が進んだ。 ②将来の医療情報連携が、より現実的なものとなり、連携関係がより深 まった。

	11	1 1100		li .		
	H30 自己	H29   県	項目別の	具体的成果等		
		評価				
(2)収入の確保	C	В	35			
①入院収益は診療単価が上昇したが、延入院患者数の減少により		-	00	①平成30年度診療報酬改定に対応し、7:1入院基本料の看護度新基		
前年度に比べて0.1%(6百万円)減少、外来収益は延外来患者数				準(基準Ⅱ:25%以上)を達成した(概算効果額は2,300万円).。		
が減少したものの、診療単価の上昇により0.4%(7百万円)増加し						
た。						
患者数は、新規入院患者数は前年度(5,968人)を1.1%下回る						
5, 902人となり、延入院患者数は前年度(79, 527人)を3. 5%下						
回る76, 784人となった。						
延外来患者数が前年度(109, 681人)を2. 9%下回る106, 49 4人、病床利用率は前年度(78. 1%)を2. 7ポイント下回る75.						
4分、病体利用学は前半度(76.1%)を2.7か12ドド回る75.4%となった。						
平成30年度診療報酬改定に対応し、7:1入院基本料の看護度新						
基準を達成したほか、新たな施設基準を取得して、診療報酬の増加						
. +,						
(3)費用の抑制	С	С	37			
①費用は前年度に比べ、医薬品費の減により材料費が2.2%(33				①物品購入関係では、消耗品類の一部(蛍光ペン、コピー用紙など)をよ		
百万円)減少したが、看護師不足等への対応として人材派遣、人材				り安価な物に変更した。		
紹介会社に対する支出が増加したこと等により経費が5. 1%(52百万円)増加した。				建物・設備関係では、空調設備保守点検契約を単年契約から3年契約 に切り替えることで契約額を抑えた。		
カロノ垣加した。 医薬品については、平成29年度に引き続き、県立3病院と連携し				に切り目えることで失利的を抑えた。		
て全国的な価格情報を有するコンサルタントに卸業者との価格交渉				・損益計算書 (単位:千円)※千円未満を四捨五入		
を委託した。				科目 H30 H29 増減 主要な増減要因		
物品購入においては、消耗品類の安価な物への変更を行ったほ				収営業収益 6,679,846 6,700,015 ▲20,170		
か、建物・設備関係では、引き続き、複数年契約へ切り替えるなど費				益 医業収益 6,513,372 6,516,850 ▲3,478 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □		
用削減に努めた。						
				その他 559,221 563,605 ▲4,384 健診収入の減		
				その他営業収益 166,474 183,166 ▲16,692 資産見返補助金等戻入の減		
				営業外収益ほか 152,851 147,798 5,052 補助金収入の増		
				総収益   6,832,696   6,847,814   ▲15,117		
				費 営業費用 6,958,412 6,909,051 49,361		
				用 医業費用 6,951,448 6,902,142 49,306		
				給与費 4,097,861 4,053,154 44,708 嘱託職員給与等の増		
				材料費 1,465,056 1,497,604 ▲32,548 医薬品費の減		
				経費   1,074,530   1,022,114   52,416   委託料の増、光熱水費の増   減価償却費   265,720   281,487   ▲15,766   医療器械等減価償却費の減		
				一般管理費 6,964 6,909 55		
				営業外費用ほか 2,292 3,847 ▲1,555 支払利息の減		
				総費用 6,960,704 6,912,898 47,806		
				純利益 ▲128,008 ▲65,085 ▲62,923		
		<u> </u>				

第3	予算、収支計画及び資金計画の状況 経常収支比率は98.2%となり、年度計画の目標「100.0%」を下回った。 医業収支比率は96.0%となり、年度計画の目標「98.0%」を下回った。	H30 自己 評価 C	H29 県 評価 C	項目 別の ページ <b>38</b>	具体的成果等
第4	短期借入金の状況 ①計画的な資金管理により、短期借入金の調達金額を800百万円 に抑えることができた。	В	В	42	経常収支比率     100.0%     98.2%     99.1%     99.5%     99.2%       医業収支比率     98.0%     96.0%     97.0%     97.3%     97.0%
2	その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項の状況施設及び設備に関する事項 ①年度計画に基づき、リニアックやナースコールシステム等を整備した。 職員の就労環境の向上 ①良好な職場環境づくり ①専門機関と契約し、毎月1回の院内カウンセリングを実施するほか、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを実施するなど、メンタルへルス対策の充実を図った。	ВВВ	ВВ	44 45	①リニアック、ナースコールシステム及び受変電設備電源切替盤工事については、県が創設した長期借入金制度を活用し、当院負担額を軽減した。 ①専門機関による「毎月1回の院内カウンセリング」「専門機関事務所でのカウンセリング」「職場復帰時の相談支援」等を実施した。 ②ハラスメント相談対応チームについて、ポスター掲示の啓蒙活動等を
(	②外部有識者を含めたハラスメント相談対応チームについて周知するなど、良好な職場環境づくりに努めた。 2)就労環境の整備 ①院内保育所の運営充実、業務運営の改善及び効率化、職員健康 診断の充実等により、就労環境の整備を図った。	В	В	45	行った。 ①職員健康診断のオプションとして、45歳以上の職員を対象に頭部MR I・MRA検査を追加した。

別冊

# 平成30年度 業務実績報告書 〈項目別 業務実績〉

令和元年6月



#### 平成30年度 業務実績報告

#### <法人の自己評価>

٠.		
	S	年度計画を大幅に上回って実施している(特に優れた実績)
	Α	年度計画を上回って実施している
	В	概ね年度計画どおり実施している(達成度が概ね9割以上)
	С	年度計画を十分に実施していない(達成度が概ね6割以上9割未満)
Ī	D	年度計画を大幅に下回っている(達成度が6割未満)

#### <評価委員会の検証>

S	中期目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
Α	中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
В	中期目標の達成に向けて概ね順調に進んでいる
С	中期目標の達成のためにはやや遅れている
D	中期目標の達成のためには重大な改善事項がある

中期目標	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
中期計画·年度計画	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価	
療の提供	・紹介と救急による入院患者 を積極的に受け入れるととも に、専門的で、かつ質の高い がん診療に取り組む。	療の提供 ア急性期病院としての基本機能の充実 一紹介と救急による入院患者を積極的に受け入れるとともに、腹腔鏡下手術によるがん手術の増など、質の高いがん診療に取り組む。	ペッドコントロール組織及び専任者の設置、クリティカルパス活用による医療の質の向上、多職種による症例カンファレンス、医療安全研修会、感染防止訓練・研修会の実施など、概念を下回ったが、引き続き高水準を維持した。 ・質の高いがん診療に努めたが、外科医師の転出により、腹腔鏡下手術によるがん手術件数は減少した。    日初   H29   H28	В
	・全てのスタッフがそれぞれの 専門的能力を発揮し、チーム の力で治療・ケアの水準向上 に取り組む。	門性を発揮し、チーム医療の 実践により治療・ケアの水準 向上に取り組む。	・呼吸療法チームについて、ICU看護師とリハビリテーション部による勉強会を 実施 ・周術期管理チームの在り方について検討 ・周術期管理チームセミナーに看護師が参加	
		○医師・看護師をはじめ多職 種による症例カンファレンスを 充実する。	・総合内視鏡センター、外科、脳神経外科、整形外科等において、多職種による カンファレンスを実施した。	

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
		○病棟薬剤業務や栄養指導 業務などにおいて、コメディカ ルの各職種が専門性を発揮 し、医師・看護師への積極的 な支援と患者に対する指導業 務を充実・強化する。	〈薬剤部〉 ・注射薬の安全管理の充実のために、患者1施用毎の取り揃えを実施 ・平成29年12月、ICUに薬剤師を配置して以降、薬剤師の全病棟配置を維持し、 患者に対する薬剤指導の充実に取り組んだ。 〈栄養科〉 ・入院診療計画書に基づき、医師、看護師と共同して患者の栄養管理を実施 ・栄養管理計画書を定期的に評価し、必要に応じ栄養指導の実施や栄養サポートチームへの介入を医師に促した。 ・在宅患者訪問栄養指導の実施に向けて、訪問看護師・MSWと連携を強化 ・退院時カンファレンスの件数増加に向けて、MSWと連携を強化	
		件数 9, 400件以上	【実績】 平成30年度 服薬管理指導件数 8,519件	
		○資格職の専門性の発揮の ために、事務的業務の削減や 他職種への移行を推進する。	・在院日数が短く、入退院数の多い病棟に事務員を配置し、患者に対する入院 説明や各種集計業務を行うなど、病棟看護師の事務的業務の軽減を図った。	
るため、各種診療ガイドライン 等に基づくクリティカルパスを 促進するとともに医療安全対	イ 最適で確実な医療の提供・科学的根拠に基づいた標準的な治療を提供するため、各種診療ガイドライン等に基づくクリティカルパスの作成・活用により、医療の質の向上に取り組む。	患者の増加に取り組む。	・平成29年度から電子カルテのクリティカルパス登録を推進し、平成29年度の1件から、平成30年度末迄に16件まで増加させた。 ・入院患者に対する電子パス適用率が第3四半期実績9.9%から第4四半期実績14.4%に上昇した。	
	・毎月開催する医療安全管理 委員会を中心に、インシデント・アクシデントリポートの収 集・分析ならびにリスク回避方 策の検討・評価に取り組む。	○医療安全管理委員会において、リスク回避方策の検討と 医療安全対策の効果検証を 行う。	・インシデント・アクシデントレポートを収集し、要因分析、回避方策の検討に取り 組んだ。	
	・研修会や院内広報などにより、医療安全対策の情報を共 有化し、職員の意識を向上させる。	○医療安全に係る研修会について、積極的な職員の参加を 促進し、情報共有化と意識向 上に取り組む。	・医療関係職員に対して集合研修を実施 4月:「ポート針講習会」など3回、 5月:「血液ガス分析医療機材講習会」など5回 6月:「BLS講習会」など2回 7月:「ニードルレスバルブ講習会」1回 8月:「硬膜外麻酔カテーテルセット講習会」1回 9月:「抗がん剤曝露防止医療器材説明会」4回 10月:「BLS研修会」1回 11月:「『ほめる生き方』医療安全研修会」1回 1月:「閉鎖式点滴投与ルート(揮発性抗がん剤)説明会」3回	
	ともに、入院患者に対しわかり	○医薬品安全管理の手順書 に基づいた取扱いを徹底する とともに、入院患者に対しわか りやすい服薬管理指導を積極 的に実施する。	・医薬品安全管理の手順書に基づいた取扱いを徹底するとともに、入院患者に対して、わかりやすい服薬管理指導を実施    H30	

			年度計画に係る業務実績・法人の	)自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	練や研修会の実施、院内感染	○院内感染防止委員会を中心に、感染防止訓練の実施や 研修会の定期的な開催など組 織的な院内感染対策に取り組 む。	5月:新人看護師 尿道バルーンカテーテル管理・感染防止研修、Web研修	

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
た医療の提供 ア接遇や院内環境の整備に 来院者の意見や要望を反映	た医療の提供 ア患者サービスの向上推進・ソフト・ハード両面のアメニティの向上に向けて、定期的な患者満足度調査を実施するなど、来院者の意見・要望をしっかりと把握し速やかな改善に結び付ける。	○ご意見箱の意見に対して、	<ul> <li>・9月に外来待ち時間調査、10月に患者満足度調査を実施し、課題把握と 改善に取り組んだ。</li> <li>・ご意見箱の意見の回収を2週間毎に行い、関連部署の回答を得て院内外 に公表するとともに、速やかな改善に努めた。</li> </ul>	<自己評価設定理由> 外来待ち時間調査(9月)、患者満足度調査(10月)を実施し、課題把握と改善に取り組んだ。 ご意見箱の意見の回収を2週間毎に行い、速やかな改善に努めたほか、糖尿病・内分泌センターを新設による内科外来患者の待ち時間短縮、入院予定患者に対する早期入院サポートに取り組むなど、概ね年度計画を達成したため。	В
		遇の向上に向け、研修会の開催の他、クレームに対する注	・4月 新規採用職員を対象とした接遇研修会を開催した。 ・8月 時間外受付委託職員を対象とした接遇研修会を開催した。		
	等の清掃の徹底と整理整頓を 行い、利用者に快適な院内環	等の清掃の徹底と整理整頓を	・清掃業者により清掃の徹底・整理整頓が実施されているが、緊密に情報交換を 行い、一層の清掃方法の改善などを行った。		
		○内科外来の診察室を増設 し、患者の待ち時間の短縮を 図る。	<ul><li>・11月12日、糖尿病・内分泌センターを新設し、内科外来患者の待ち時間の短縮を図った。</li></ul>		
法・条例に基づき適切に取り 扱い、臨床における倫理的課	への取り組み ・徳島県個人情報保護条例に 基づき、各種個人情報を適正 に管理するとともに、患者本人 からの開示請求手続きに対し	への取り組み ○徳島県個人情報保護条例 に基づき、各種個人情報を適 正に管理するとともに、患者本	・各種個人情報を適正に管理するとともに、患者本人からの開示請求手続きに 適切に対応した。		
	会を中心に、身体抑制等診療・ケアにおける倫理的課題	応マニュアルの院内全体への 徹底と、研修会の開催により 職員の人権意識の向上に取り	<ul><li>・6月 臨床倫理研修会を開催し、講演会及び事例検討のグループワークを 行った。</li><li>・10月「性同一性障害の患者さんへの対応について」対応方針を作成</li><li>・12月「意思確認できない患者さんへの同意書作成について」指針を作成</li></ul>		
	・患者の視点に立った医療を 提供するとともに、インフォー	ウ 医療に関する相談体制 ○患者の視点に立った医療を 提供するとともに、インフォー ムド・コンセントを徹底する。	・患者の視点に立った医療提供に努めるとともに、医療行為等の分かりやすい 説明に努めた。		
		〇入院予定の段階で、入院中 の治療・検査の説明を行うとと もに、患者の様々な情報を把 握し早期にサポートを開始す る入院支援業務に取組む。	・早期入院サポートの手順をまとめ、地域連携室と病棟・外来部門との間で連携を強化 ・6月、県立中央病院で開催されたPFM(※)に関する研修会に2名が参加 ※PFM(Patient Flow Management)とは 予定入院患者情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手するとともに 同時に、病床管理を合理的に行うことなどを目的とする組織 ・11月から整形外科患者に対して早期入院サポートを開始 11月:2名、2月:2名、3月:1名		

			年度計画に係る業務実績・法人の	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	部門の連携を強化し、入院中 の治療や退院後の療養の相	門・退院支援部門・訪問看護 部門が連携し、入院から退院	、医事課、看護局、施設課と企画及び準備を行った。	

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価	
県北部の主要な2次救急医療	・2次救急医療機関として、全 診療科の協力体制と24時間 稼働の各種検査体制の強化 に取り組む。	(3) 救急医療の強化 ○「病院全体で救急患者を診る」という理念の下で、全診療科の協力体制と24時間稼働の各種検査態勢の強化に取り組む。	り、救忌廠送患者の円滑な受入に劣めた。 また、日曜日の小児救急医療体制を維持	В
	制を一層強化する。	○連携医療機関をはじめ、鳴門市・板野東部・板野西部の各消防機関との定期的な連絡会及び症例検討会を開催し、連携体制を一層強化する。	・消防機関との連携については、鳴門消防、板野東部、板野西部消防と意見交換会等を行い、協力体制の強化に努めている。 6月・2月:鳴門消防救急救命士を講師に迎え、災害時の多数傷病者の対応に関する研修会を開催などにも取り組んだため。 関する研修会を実施 8月:板野西部消防と意見交換会を実施 12月:鳴門消防との意見交換会を実施 1月:板野東部消防との意見交換会を実施	
	【年間救急患者受入件数】 平成27年度実績値 6, 696 件 → <u>平成32年度目標値</u> <u>6, 800件</u>		【実績】 平成30年度 救急患者受入件数 6, 428件  ・年間救急患者受入件数は6, 428件と平成30年度目標6, 750件を下回り、 鳴門消防からの救急要請患者受入率も88. 9%と2. 4%減少した。  H30 H29 H28 H27	
			地域救急要請受入率     88.9%     91.3%     92.0%       救急患者受入数     6,428人     6,470人     6,915人     6,696人       うち救急搬送患者受入数     2,208人     2,317人     2,421人     2,279人	

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価
地域がん診療連携推進病院と して県内のがん診療連携拠点	・健康管理センターの検診により、がんを早期に発見し、迅	(4) がん医療の充実 ○健康管理センターの検診に より、がんを早期に発見し、迅 速な治療に結びつける。	・人間ドック、がん検診等の実施により早期発見・早期治療に繋げた。
集学的治療の推進やチーム	集学的治療の推進やチーム 医療によるがん診療の質の向 上及び緩和ケアの提供など、 がん医療の充実に努めること。 ・総合内視鏡センターにおける 内科と外科の連携による大腸 がん治療、外科と形成外科の	<b>述が口源に叩い</b> づける。	人間ドック・日帰り 2,480人 2,397人 2,389人 2,330人 人間ドック・2日 222人 264人 309人 373人 がん検診 1,436人 1,167人 1,315人 1,565人
		る内科と外科のカンファレンス	・総合内視鏡センターにおける、内科・外科・病理のスタッフにより、原則週1回、カンファレンスを開催し、がん手術件数の増加に努めた。    H30   H29   H28   H27     腹腔鏡下手術・大腸がん手術   14件   38件   44件   31件     腹腔鏡下手術・胃がん手術   10件   17件   16件   11件     腹腔鏡下手術・その他のがん手術   0件   2件   2件   2件   2件
		【目標】 平成30年度 腹腔鏡下手術 による大腸がん手術件数 40 件	【実績】 平成30年度 腹腔鏡下手術による大腸がん手術件数 14件
		── ○ 外科と形成外科がチームで 協働し、乳がんの切除と乳房 再建の同時施行件数の増加 に取り組む。	・平成30年度の乳がん切除と乳房再建の同時施行件数は13件となり、平成29 年度実績11件より、2件増加した。
		房再建同時施行件数 12件	【実績】 平成30年度 乳がん手術・乳房再建同時施行件数 13件
	・地域がん診療連携推進病院として、治療機器の充実により	院として、がん診療連携拠点	・地域がん診療連携推進病院として拠点病院と連携を図りながら、がん診療を行っている。
	集学的治療の質の向上に取り 組むとともに、がん診療連携 拠点病院との連携を強化す る。	病院との連携を強化する。	H30   H29   H28   H27   がん入院患者延人数   11,981人   12,966人   12,174人   11,413人   11,413人   14,413人   14,413
		のリニアック」を導入すること	<ul> <li>・6月 リニアック導入ための入札手続に着手</li> <li>・7月 リニアック購入契約を締結</li> <li>・11月 原子力規制委員会から変更許可を取得</li> <li>・12月 旧装置撤去、改修工事着手</li> <li>・3月 リニアック設置完了、再稼働に向けた準備に着手</li> </ul>
		を導入できるよう、診療体制・ 施設整備・患者対応等につい て、総合的に検討する。	・9月 メーカーによる院内向け製品説明会を開催 ・PETーCT設置のレイアウト、構造計算、遮蔽計算の検討
		ん領域の認定看護師の各種	・がん専門医等や認定看護師の確保・養成に努めた。 がん医療の専門医・認定医 3名 認定看護師(がん性疼痛、化学療法、緩和ケア) 4名

			年度計画に係る業務実績・法人の	D自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	・がんリハビリテーションによる機能回復とともに、医師、看護師及び薬剤師等による緩和ケアに取り組む。	ムによるケアを推進する。	・がんリハビリテーションによる機能回復 ・がんリハビリ実施件数 H30:131件(H29:166件、H28:129件) ・キャンサーボードにリハビリテーション部職員が参加し、術前から患者情報を共有することで、術後の早期離床を促進 ・緩和ケア患者に対して、疼痛緩和を目的としたリラクセーション、リンパ浮腫患者への予防指導及びリンペマッサージなどを実施 ・がんリハビリテーションにおける医療水準の向上を目的に、今年度、認定資格者3名増加を目標として設定し、11月に達成 ・自宅での生活を希望する患者には、職員だけでなく、患者・家族と一緒にカンファレンスに参加し、環境整備や段階的なレベルに応じた介助方法の指導などを実施 ・緩和ケアチームによるケア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるケア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるケア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるケア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるケア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるサア ・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・緩和ケアチームによるサア・週1回のカンファレンス、月1回の勉強会を実施 ・活用などを実施 ・活用などの表別である場合に表別である場合に表別である。 ・活動などの内に表別である場合に表別である。 ・治院緩和ケアチームに関する患者用ポスターの作成し、院内に掲示・病院広報誌「鳴門病院だより」に緩和ケアチーム活動報告記事を掲載	
		○無菌治療室の積極的活用 などによる化学療法を推進す る。	<ul> <li>・無菌治療室の積極的活用などによる化学療法の推進に努めた。</li> <li>無菌治療室延患者数 H30:1,672人(H29:1,715人)</li> <li>外来化学療法延件数 H30:1,486件(H29:1,265件)</li> </ul>	
	【年間がん入院患者延数】 平成27年度実績値 11,413人 → <u>平成32年度目標値</u> 12,500人	【目標】 平成30年度 がん入院患者 延数 12,000人以上	【実績】 <u>平成30年度 がん入院患者延数 11, 981人</u>	

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価
る医療の促進 地域住民に対する生活習慣病	る医療の促進 ・生活習慣病の発症予防や再		く自己評価設定理由> 人間ドック等の実施により生活習慣病の早期発見・早期治療に繋げた。
	発防止のため、健康管理センターの健診受け入れの拡大や機能強化に取り組む。	能やメニューを企業・団体に対して積極的に広報し、受入拡大に積極的に取り組む。	H30H29H28H27成したほか、糖尿病・内分泌センターを開設するなど、概ね年度計画を達成したため。人間ドック・日帰り2,480人2,389人2,330人
大に努めること。		, w = <u>[</u> , ]	人間ドック・2日 222人 264人 309人 373人 糖尿病予防検診・オプション検査 71件 55件 76件 42件
			【実績】 平成30年度 人間ドック件数 2,702件
		平成30年度 一般検診件数 19,900件	<u>平成30年度 一般検診件数 20,059件</u>
		○高齢化の進行などに対応 し、1日2回の透析治療によ り、透析患者の更なる増加に 取り組む。	・患者の急変時における医師の協力体制、透析室スタッフ(看護師・臨床工学技士) の遅出勤務や配置体制等の整備を経て、平成29年9月4日から午後透析を開始    H30   H29   午後透析・延べ患者数   1,055人   375人
		【目標】 平成30年度 透析治療件数 9. 100件	【実績】 平成30年度 透析治療件数 10,009件
	・多職種の専門性を発揮し、 生活習慣病患者の治療・ケア 及び啓発に取り組む。	○「糖尿病センター」を設置 し、糖尿病専門医・認定看護 師等多職種のチームにより、 糖尿病教室・教育入院・フット ケア外来等の一層の充実に取	・11月12日、糖尿病・内分泌センターを開設し、糖尿病・内分泌専門医、糖尿病 認定看護師、管理栄養士、MSW等多職種のチームにより、糖尿病教室、教育 入院、フットケア外来等の一層の充実を図った。
		り組む。	H30     H29     H28       糖尿病透析予防外来     46件     21件     9件       フットケア外来     88件     62件     56件
			271 77 77 W

			年度計画に係る業務実績・法人の	D自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
<u>療の充実</u>	療の充実 ・産科及び小児科の診療体制を充実するとともに、無痛分娩や新生児管理等において他の診療科による支援活動を促進する。	制の充実とともに、麻酔科の協力による無痛分娩など他の診療科による支援を促進する。	・関係科支援のもと、無痛分娩や新生児管理を行った。 ・日曜日の小児救急体制を継続した。	<自己評価設定理由> 無痛分娩や新生児管理、日曜日の小児医療救急体制を維持した。また、助産師外来・母乳外来については、平成31年1月から新たに隔週金曜日も実施し、受診者数が増加したため。
	・助産師外来・母乳外来等助産師による活動を促進する。	○助産師外来・母乳外来等助 産師による活動を促進する。	・助産師の稼働者不足のなか、助産師外来・母乳外来を維持した。         助産師外来・母乳外来については、平成30年12月までは水曜日のみ実施であったが、平成31年1月からは隔週金曜日も実施することとした。         H30       H29       H28       H27         分娩数()は無痛分娩数       250(32)件       227(37)件       251(41)件       265(52)件         助産師外来・母乳外来受診者延数       202人       155人       156人       151人         小児救急患者受入数       223人       294人       286人       362人	

				年	度計画に	に係る業	務実績∙法人	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)		業務実	績			自己評価	
		(7) 特徴を発揮した医療 <u>の推進</u> ○手の外科センターにおい	<ul><li>手の外科センターにおいて、高度</li></ul>	な治療を実	『施した。			<自己評価設定理由> 手の外科手術件数は年度計画を下回った	В
「手の外科」等、専門的な人材	医師・看護師・作業療法士が	て、医師・看護師・作業療法士		H30	H29	H28	H27	が、乳がん切除と乳房再建の同時施行件 数が増加したため。	
能力を活かした鳴門病院の特徴となる医療の充実に努める		が一体となって迅速かつ高度 な治療を実施する。	手の外科手術件数(全件)	600件	647件	609件	602件		
はとなる区域の元大に対めること。	7月7月で <del>大</del> 肥する。	な口原と大肥する。	労働災害以外の件数	330件	348件				
			【実績】 <u>平成30年度 手の外科手術件数</u> (※労働災害以外						
	再建を行い、身体的負担を軽減し、かつQOLを高める治療を実施する。		・平成30年度の乳がん切除と乳房 年度実績11件より、2件増加しか		<b>詩施行件</b> 数	なは13件と	なり、平成29		

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価
支援 (1) 医療・介護連携の充実 実 ア地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を一層強化し、「紹介率・逆紹介率」の維持・向上に努めること。	支援 (1) 医療・介護連携の充 実 ア 地域医療支援病院としての機能強化 ・地域の医療機関との役割分	2 地域医療・介護 支援 (1) 医療・介護連携の充 実 ア地域医療支援病院としての 機能強化 ○地域医療機関との連携強化 により、「紹介率」及び「逆紹介 率」の向上に取り組む。	・平成30年度の紹介率は72.3%、逆紹介率は99.6%となり、前年度比で、 紹介率は1.1ポイント上昇したが、逆紹介率は6.6イント低下した。
	【年間紹介率】 平成27年度実績値 72. 2% → <u>平成32年度目標値 78.</u> 0% 【年間逆紹介率】 平成27年度実績値 86. 4% → <u>平成32年度目標値 95.</u>	平成30年度 紹介率 75.0%以上 平成30年度	【実績】         平成30年度         紹介率 72. 3%         平成30年度         逆紹介率 99. 6%
イ 医療連携体制に基づく地域 完結型の医療を実現するため、地域連携クリティカルパス の整備普及に努めること。	の整備普及	イ地域連携クリティカルパスの整備普及 ○脳卒中及び大腿骨頸部骨折の地域連携クリティカルパスの活用例を増やすとともに、その他の疾患の地域連携クリティカルパスについては、他病院での活用例などの情報を集め、導入について検討する。	- 脳卒中及び大腿骨頸部骨折の地域連携クリティカルパスの活用に努めた。
割を担うため、整備が図られ た高度医療機器を積極的に活		ウ高度医療機器の積極的活用  〇地域医療機関から積極的に紹介を受けてCT・MRI・マンモグラフィー等の高度医療機器による検査を行い、地域医療支援病院として専門性の高い診断を行う。	・高度医療機器共同利用件数は4.8%増加した。    H30   H29   H28   H27     高度医療機器共同利用件数   909件   867件   936件   973件     MRI   511件   532件   546件   580件     CT   398件   335件   390件   393件

			年度計画に係る業務実績・法人の	)自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
築に向けて、退院後の療養支 援や地域の訪問看護・居宅介 護の質の向上に向けた支援に 努めること。 ・ウ ・ケ ・ ・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・	築に向けた支援 ・早期の機能回復と社会復帰 に向け、入院・手術直後から	エ 地域包括ケアシステムの構築に向けた支援 ○早期の機能回復と社会復帰に向け、クリティカルパスに則り、処置・手術等の直後から行う早期のリハビリテーションを充実強化する。		
	し、医師会とともに地域の在宅	○医師・看護師・MSW等が地域のケアマネージャーの参加の下、退院前カンファレンスを行い、退院後の療養に向けた緊密な連携を行う。		
		退院支援実施率 25.0% 平成30年度	【実績】 平成30年度 退院支援実施率 27. 3% 平成30年度 介護支援連携指導件数 592件	
	う従事者に対し、退院時の連	〇在宅医療実施機関・訪問看護ステーション・介護施設等との連絡会議の開催などにより連携を強化する。		
	・在宅医療・訪問看護の後方 支援病院として、症状悪化時 の入院受入等に対応する。		・鳴門市板野郡地区相談連携実務者会を、年3回開催し、在宅療養後方支援 病院のネットワーク化を推進し、成果物として「在宅医療後方支援ネットワーク」 を作成した。また、3箇月に1度、訪問診療医と当院患者に関する情報共有を 行い、緊急時の入院受け入れを行っている。	

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価			
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価		
健康管理センターにおける健診活動の推進を図るとともに、地域住民の健康に対する啓発を促進し、住民の健康に有用な医療情報の公開・提供に努めること。	持への貢献 ・健康管理センターにおいて各種予防健診や人間ドック等を	持への貢献	・「PET-CTがん検診」の創設に向け、他病院の事例を調査・院内関係所属(健康管理センター、放射線部、事業調整課)において、PET-CT導入スケジュール、受診者受入体制、検査薬の取扱い等について検討	<自己評価設定理由> 平成31年度に導入予定のPET-CTを活用したがん検診創設に向けた調査・検討を行った。 また、鳴門市と連携したシンポジウム、徳島県スポーツ振興財団との共同事業、その他、糖尿病教室、健康相談、栄養相談など通じて、地域住民の健康維持に貢献したため。	A	
	・各職種の専門性を生かし、 地域住民を対象とした公開講 座やセミナー開催による啓発 活動を行う。		・鳴門臨床教育セミナー(連携医療機関及び院内対象 3回開催) ・徳島県スポーツ振興財団との共同事業として、鳴門市在住の中高齢者を対象とした「生活習慣病予防教室」(週2回程度、前期・後期で各30回)を開催(前期参加者:34名、後期参加者:44名) ・8月~9月、3月~ 筑波大学附属病院と徳島県スポーツ振興財団との共同事業として、鳴門市民を対象に「転倒予防教室」を開催 ・その他の地域貢献活動 毎月 医師、薬剤師、管理栄養士等による糖尿病教室を開催 5月 看護の日に「1日まちの保健室」や栄養相談を実施 6月 大道銀天街「100円商店街」で健康相談、栄養相談を実施 7月「ふれあい看護体験」を開催(高校生18名参加) 8月「栄養の日・ワンダー栄養2018」に参加			
	- 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「 - 「	(講演会・健康教室)について、より充実を図るための検討を進める。	・11月、鳴門市との連携事業として、新たに「地域医療を考えるシンポジウム」を開催し、市民とともに鳴門の地域医療について意見交換を行った。			
	・病院ホームペーンをリーュー アルし、治療法や健康に関す る情報について、わかりやすく 発信する。	ーアルし、治療法や健康に関	・病院ホームページリニューアルにより、必要とされる情報を見やすく、わかりやすく伝えられるよう構成・デザインを検討 ・病院ホームページ用の写真撮影や掲載内容を確認 ・11月 病院ホームページのリニューアルを完了 ・病院指標の公表や「鳴門病院だより」を掲載し、情報発信を行った。			
		CATV等の媒体を通じて、病	・広報誌「鳴門病院だより」に「糖尿病・内分泌センター」「脊椎脊髄センター」の設置、地域住民の健康に対する啓発記事を掲載した。 ・11月に鳴門市との連携事業として開催した「地域医療を考えるシンポジウム」は、テレビ鳴門で放映された。 ・鳴門市の広報に糖尿病教室の開催や当院のインフルエンザ対応等について掲載した。			

			年度計画に係る業務実績・法人の	D自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
医療救護 (1) 医療救護活動の拠 点機能 災害拠点病院として、災害発	医療救護 (1) 医療救護活動の拠点機能 ・災害発生時の傷病者の受入体制の強化に向けた訓練を実施するとともに、事業継続計画	3 災害時における 医療救護 (1) 医療救護活動の拠 点機能 ○災害発生時の初動対応など の訓練を実施するとともに、事 業継続計画(BCP)を改訂し 充実を図る。		<自己評価設定理由> 災害発生時初動訓練としての「安否情報・参集情報入力訓練」を実施したほか、災害時であっても医療機能を継続させることができるよう業務継続計画(BCP)を改訂するなどの取組みを行い、概ね年度計画を達成したため。	В
	拠点病院である県立3病院や 徳島赤十字病院等との災害医 療連携を強化する。	共同実施等、連携の強化に向けた取り組みを推進する。	・6月 徳島赤十字病院の災害訓練を当院から2名が視察した。		
	・新型インフルエンザ等の感染 症対策を強化する。	○新型インフルエンザ等の感 染症対策を強化する。	<ul><li>・感染管理室を中心として、年2回の院内感染対策に関する研修を実施するとともに、感染対策マニュアルの改定に取り組んだ。</li><li>・冬期インフルエンザ流行期に面会制限等を徹底し、院内感染防止に取り組んだ。</li></ul>		

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
療救護への協力 災害派遣医療チーム(DMA T)の技能向上を図り、他地域 における医療救護活動への協 力体制の強化に努めること。			11月 徳島DMAT養成研修に1名が参加 11月 中国・四国ブロックDMAT技能維持研修に7名参加 12月 病院ロジスティクス研修に2名参加 3月 中国・四国ブロックDMAT技能維持研修に1名参加	<自己評価設定理由> 災害派遣チーム(DMAT)の充実に向け、 各種研修等に参加した。 また、内腐府主催「平成30年度大規模地 震時医療活動訓練」に病院挙げての参加す るなど、国や自治体が実施する広域災害訓 練に積極的に参加したため。	В
	・国や自治体が実施する広域 災害医療訓練への参加を促進する。	○大規模災害発生時にはDM ATが常時出動可能な体制を確保する。 ○国や自治体が実施する広域災害医療訓練への参加を 促進する。	<ul> <li>・DMAT2チームを維持し、大規模災害発生時に常時出動可能な体制を確保している。</li> <li>・毎月1回、県が実施する衛星電話・防災無線訓練に参加</li> <li>・5月 第1回大規模地震時医療活動訓練検討会に4名参加</li> <li>・8月 内閣府主催「平成30年度大規模地震時医療活動訓練」に参加傷病者受け入れの実動訓練を、当院職員130名、他病院コントローラー2名、愛知県DMAT2チーム、鳴門消防等と協力して実施</li> <li>・9月「鳴門市総合防災訓練」(ウチノ海総合公園)に当院DMAT1チームが参加・10月 南紀白浜空港SCU訓練(内閣府主催)に2名参加</li> <li>・2月 徳島県国民保護共同訓練に4名参加</li> </ul>		

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価
成	4 人材の確保・養成(1)質の高い医師の確保・養成ア医師の確保と教育・研修の充実・関係機関との連携を強化し、優秀な医師を確保する。	4 人材の確保・養成 (1) 質の高い医師の確保・養成 (1) 質の高い医師の確保・養成 ア 医師の確保と教育・研修の充実 ○関係機関との連携を強化し、業務に必要な医師数を確	・医師は平成29年4月と比較して2名減(常勤±0、非常勤▲2)であり、十分な 医師確保には至っていない。  - 田30 H29 H28 H27  - 田30 H29 H28 H27  - 初期臨床研修医の処遇改善策の周知
	・高度医療の提供に向けて、 先進病院での研修実施や学 会への参加とともに、医師の 専門医資格の取得を促進す る。	保する。  ○高度医療の提供に向けて、 先進病院での研修実施や学会への参加とともに、医師の 専門医資格の取得を促進する。	常勤     非常動     常勤     非常動     常勤     非常動     常勤     非常動       医師     42人     11人     42人     13人     42人     12人       ・高度な医療を提供できる医師の養成のため、学会等への参加を推進している。       日30     H29     H28     H27       医師の医学会等参加件数     118件     139件     139件     120件
のある臨床研修プログラムの	・自院の特色や他の臨床研修 病院との連携により魅力ある 研修プログラムを設定し、初期 臨床研修医を確保する。	イ臨床研修医の確保 ○自院の特色や他の臨床研 修病院との連携により魅力あ る研修プログラムを設定し、初 期臨床研修医を確保する。	-6月 徳島大学病院研修プログラム説明会に参加     -7月 レジナビ大阪に参加し、当院での初期臨床研修への応募を呼びかけ     -10月 初期臨床研修マッチング結果が0名であったため、改善策の検討に着手し、2月に処遇改善策を決定     -1月~3月 徳島大学医学部医学科5年次8名の学外実習を受け入れ     -3月 レジナビ福岡に参加し、初期臨床研修プログラムを学生15名に説明
	・地域枠医師の養成とともに、 徳島大学病院・県立中央病院 の連携施設として、専門研修 の実施に取り組む。 ・研修指導医の養成に取り組 み、研修体制を強化する。	○新専門医制度の連携施設として研修医を受け入れ、専門研修を実施する。 ○研修指導医の養成に取り組み、研修体制を強化する。	おいて、連携施設又は協力施設として体制を整備し、麻酔科に連携施設として 1名の医師を受け入れた。

			年度計画に係る業務実績・法人	の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
養成 看護師やその他のコメディカ ル等の専門性の向上を図るため、研修制度の整備や資格取	め、研修要綱に基づいた計画	養成 ○病院としての機能向上や専門性の強化に資する計画的な研修を実施するとともに、研修	・各部署・各委員会において研修計画を立てて実施した。	<自己評価設定理由> 職員の専門性を向上させるため、院内研修 の実施はもとより、各職種ごとに資格取得 等に積極的に取り組むことができたため。
		○各部門でのスタッフ教育の 中心となる中堅者リーダーの 教育研修受講を促進する。	・中堅者に対して、研修会や学会等への参加を促し、旅費等の支援を行った。	
	継続教育体制を充実するとと もに、急性期機能の充実や地 域支援等に資する認定看護師	で育成する。	<ul><li>・eーラーニングを活用し、実技の時間を増やすことで、実践で活用できる内容にした。</li><li>・新人看護師の教育を担当するチームが、新人の配属されている病棟をラウンドし、病棟スタッフと共に新人を支援する体制を整えた。</li></ul>	
	等、高度・専門的な資格取得を促進する。	○看護水準の向上のため、認 定看護師等、高度・専門的な 資格取得を促進する。 【看護局 資格取得・参加予定 研修】 ・糖尿病看護認定看護師教育	<ul><li>・糖尿病看護認定看護師教育課程 1名修了</li><li>・認定看護管理者研修 ファーストレベル 3名修了</li><li>・自治体病院協議会主催看護管理研修会 1名修了</li><li>・医療安全管理者研修 2名修了</li></ul>	
		課程 ・認定看護管理者研修 ファーストレベル ・看護管理管理を会・医療を対象を	・四国ストーマリハビリテーション講習会 基礎コース 2名修了 アナローアップコース 2名修了 ・認知症対応力向上研修 1名修了 ・重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修 7名修了 ・新人看護職員卒後臨床研修 教育担当者研修) 2名修了 アナリカ ア アナリカ (実地指導者研修) 3名修了 アナリカ アナリカ アナリカ アナリカ アナリカ アナリカ アナリカ アナリカ	
		・院内感染対策講習会・退院支援ナース養成研修・四国ストーマリハビリテーション講習会 基礎コース及びフォローアップコース・認知症対応力向上研修・重症度、医療・看護必要度評	・臨地実習指導者研修 1名修了 ・災害支援ナースフォローアップ研修 1名修了 ・DMAT養成研修 1名修了 ・自治体病院協議会主催臨時実習指導者研修 1名修了 ・がんリハビリテーション研修 1名修了	
		価者院内指導者研修 ・新人看護職員卒後臨床研修 (教育担当者研修、実地指導者研修) ・臨地実習指導者研修 ・災害支援ナースフォローアッ	H30     H29     H28     H27       認定看護師数     6名     6名     6名     7名	
		プ研修		

			年度計画に係る業務実績・法人の	)自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	・薬剤師、診療放射線技師及び臨床検査技師等のコメディカルについて、専門性の向上に向け、研修制度を充実強化する。	について、高度・専門的 な資格取得を促進する。 【放射線部 資格取得・参加予 定研修】	<放射線部> ・PET研修セミナー受講 ・放射線取扱ガイドライン講習会受講 ・CT・MRI等WEBカンファレンス/ライブセミナー参加(月1回)	
		音波検査学会、日本超音波医 学会、検体採取講習会	< 検査部> ・徳島県臨床検査技師会主催の勉強会に各自参加 ・日本超音波検査学会学術集会に2名参加 ・四国地区免疫血清検査研修会(香川県技師会主催)に1名参加 ・日本医学検査学会・中四国支部学会に1名参加 ・輸血部門セミナーに1名参加	
		物療法認定薬剤師などの資格 維持のための研修 ・感染制御認定薬剤師、栄養 サポートチーム専門療法士な	<ul> <li>・医療薬学フォーラム 1名参加</li> <li>・日本病院薬剤師会 医薬品安全管理責任者等講習会 1名参加</li> <li>・がん専門薬剤師集中教育講座 2名参加</li> <li>・日本くすりと糖尿病学会学術集会 2名参加</li> <li>・日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会</li> </ul>	
		【リハビリテーション部 資格取得・参加予定研修等】 ・認定ハンドセラピストの資格について、将来の取得に向けて学会発表、参加、論文作成・認定作業療法士の取得・心臓リハビリテーション指導士の将来の取得に向けて研修会参加・がんリハビリテーション認定資格の取得・その他、専門性の高い研修会の参加	<ul><li>・学術論文: 4本</li><li>・学術発表: 30本</li><li>・訪問リハビリテーション分野などの専門性の高い研修会に参加</li></ul>	
		【栄養科 資格取得】 ・がん病態栄養専門管理栄養 士	<栄養科> ・日本糖尿病療養指導士、徳島県糖尿病療養指導士、NSTコーディネーター、在宅訪問管理栄養士、公認スポーツ栄養士など資格取得のための研修に参加・所属学会、専門性の高い研修会、講習会等に参加・徳島保健所管内集団給食施設協議会 調理師研修会に参加・全国自治体病院 栄養・調理研修会に参加	

				年	度計画に	に係る業	務実績∙沒	去人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)		業務実績	績				自己評価	
実強化 ア質の高い教員の計画的な 養成に努めるとともに、病院や	実強化 ア教員の計画的な養成 ・臨床経験豊富な看護教員の養成のため、研修等への受講を促進する。 ・ICTを活用した遠隔授業など、県立総合看護学校との連携を強化する。	講を促進する。  ○ICTを活用した遠隔授業の	・平成30年度においても、引き続き、の充実強化を図った。 (平成27年度をもって看護教員全) ・平成30年度は、県立総合看護学校 (各1名)を行い、専門知識や技行 ・派遣教員は、毎月の教務会議にお 最終報告会で「計画」「実施」「評価 行った。 ・ICTを活用した講演・情報交換会・・ ・毎年実施している学生対象の人権	員が専任を をと本校と 能が向上に いて報告 」「考察」」	教員養成記 の間で、看 した。 を行ったほ こついて基 を計8回実	講習会を修 請護教員の か、両校の 準を設け、 施	了済み。) 人事交流 D中間報告: 形成評価を		<自己評価設定理由> 県立総合看護学校との間で、看護教員の 人事交流を実現したほか、ICTを活用した 講演・情報交換会・学生交流会の実施、6 年連続で看護師国家試験合格率100%を 達成するなど、優れた成果があったため。	A
携強化を図り、優秀な看護学 生の確保に努めるとともに、県	・高等学校等との連携を強化し、優秀な看護学生を確保する。 ・教育内容の向上に取り組むとともに、鳴門病院をはじめ県内の医療機関への就職を促	イ優秀な看護学生の確保 ○高等学校との連携強化の積極的な展開とともに、オープンキャンパス・ホームページ等の充実を図ることにより、優秀な看護学生を確保する。 ○教育内容の向上に取り組むとともに、鳴門病院をはじめ県内の医療機関への就職を促進する。	努めた。 ・母体病院の充実した実習体制、国(男女)設備を有している等をアピー 要学金貸与者数	等の充実 家試験合	を図り優秀	な看護学	生の確保に			

中期目標	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項
中期計画·年度計画	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき事項

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
1 業務運営体制 (1) 効果的な業務運営 の推進 理事長及び院長のリーダー シップにより経営効率の高い 業務執行体制を確立すること。	1 業務運営体制 (1) 効果的な業務運営 の推進 ・中期計画及び年度計画を達成するため、理事長及び院長のリーダーシップによる効率 的で効果的な業務執行体制を構築する。	効率的で効果的な業務執行 体制を構築する。	・年度計画の進捗について、四半期ごと、担当部局・委員会から報告を受けて 把握し、理事会、管理者会議、運営会議に報告することにより、次期の運営に 反映させる体制を構築した。	<自己評価設定理由> 理事長及び院長と各部門長がヒアリングを通じて、業務運営の改善に取り組んだ。また、顕著な実績をあげた所属に対して、グループ表彰を実施し、職員のモチベーションの向上を図るなど、概ね年度計画を達成できたため。	В
	に向けて、部門毎の目標管理	○理事長及び院長と各部門長 が、ヒアリングを通じて年度目標の達成状況や課題認識を 共有し、組織としての業務運 営の改善を推進する。	<ul> <li>・7月~8月 12診療科・19部門における平成30年度の課題と取組状況を 共有するヒアリングを実施</li> <li>・12月~1月 各診療科・部門を対象とし、平成30年度課題の取組状況、平成 31年度に向けた目標・取組、予算策定に向けた器械・備品等の 購入要望などについてのヒアリングを実施</li> </ul>		
	・職員提案制度や表彰制度を設け、業務改善に向けた職員のモチベーションを高める。	○職員提案制度とともに、各 部門の目標達成への取り組み と連動したグループ表彰制度 の本格運用を行う。	・職員提案については、7月から8月の各診療科・部門ヒアリングにおける聞き取りと、8月に全職員を対象としたアンケート調査を実施した。 ・グループ表彰については、管理者会議において3グループを選定し、年末の 仕事納め式において表彰した。		
		〇院内の会議・委員会のあり 方や数を見直し、効率的でか つ活発な意見交換ができる会 議運営を行う。	・12月 同種骨移植を必要とする患者のために必要な体制を整備するため、 新たに同種骨移植運営委員会を設置した。		
			<ul><li>・9月 医事業務委託事業者との意見交換会を実施</li><li>・随時 清掃業務委託業者との意見交換会を実施</li><li>・毎月 洗浄・滅菌委託業者との意見交換会を実施</li></ul>		

				年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
	中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
<b>の</b>	ク <b>向上</b> 5院事務に精通した事務職員 9育成に努め、専門性の向上 努めること。	(2) 事務職員の専門性 の向上 の向上 ・病院経営や診療報酬業務等 の専門研修への参加により事 務職員の専門性の向上に取り 組み、医療職への積極的な提 案を促進する。	療報酬業務等の専門研修へ	・病院事務に精通し、専門性の高い事務職員を育成するため、各部署において専門研修等への参加を促進した。  【主な参加状況】  事業調整課・経理課 ・退職給付会計研修、財務・会計セミナー  総務課 ・自治体病院学会、病院ロジスティック研修、医療機関BCP研修会  施設課 ・電気工事士定期講習、エネルギー管理講習  用度課 ・防火・防災管理講習会  医療情報課 ・院内がん登録実務中級認定者研修、情報ネットワークセミナー  医事課 ・診療報酬管理研修会  地域連携室 ・日本医療社会事業学会、ソーシャルワークスキルアップ研修  ・情報分析と院内各部署への提供 (毎月)後発医薬品使用率分析 (四半期毎)退院患者分析、紹介医療機関、退院サマリー、入院診療録監査結果	<自己評価設定理由> 事務職員の専門研修等への参加を促進し、専門性を高めることができた。 また、DPCデータの分析結果等を管理者会議や医局会等で共有し、収益向上に活用することができたため。	В
		<ul><li>・診療情報管理士等の専門資格の取得等を促進する。</li></ul>	を行い、迅速かつ的確に管理 者会議や医局会等に提供する。 ○診療情報管理士の育成に ついて計画的に取り組む。	・医局会において、DPCに関連する情報(新たに追加されたDPC対象外となる高額薬剤、コーディングの注意等)を提供 ・新たな有資格者の育成等はできなかったが、引き続き、育成及び採用ができるよう検討した。		

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価			
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価		
の構築 職員がその職務を遂行するに 当たり発揮した能力及び挙げ た業績を適正に評価すること により、努力した職員が相応	モチベーションの向上や人材 育成に資する新たな人事評価 制度を、県立病院など他病院 の評価制度等を参考に構築す	育成に資する新たな人事評価 制度について、制度構築に取	・平成29年度、試行的に県に準じて、事務局職員に対して自己申告書の提出 及びヒアリングを実施したが、平成30年度は医療技術職員を対象に実施した。	<自己評価設定理由> 県に準じた人事評価制度の試行対象を医療技術職員まで拡大することができたため。	В	
		(4) 資格職を支援する 職員の充実 ○医療クラーク・看護助手等 職員の確保に努めるとともに、 研修体制を充実する。	・新人看護助手に電子カルテの基本的操作の研修を行うなど、研修の充実を図った。 ・医療クラークの知識・技能の向上を図るため、10月から毎月1回定例会を開催した。 ・医療クラークの確保状況	<自己評価設定理由> 医療クラーク・看護助手の増員、医療クラークの知識・技能向上のための定例会開催、看護助手に対する研修の充実等の取組みにより、医師・看護師等の業務負担の軽減が図られたため。	В	

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
(1) 県立病院との連携	(1) 県立病院との連携 ・医薬品・診療材料等物品購入に係る共同交渉や災害医療連携の充実・強化、職員の	2 業務運営方法 (1) 県立病院との連携 (1) 県立病院との連携により、	・医薬品と診療材料(一部)については、県立3病院との共同交渉を継続実施した。 ・医薬品については、平成29年度に引き続き、県立3病院とともに、全国的な医薬品価格情報を有するコンサルタントに卸売業者との価格交渉を委託した。 ・4病院で災害医療における備蓄品購入に係る共同交渉を行った。 ・県立3病院との共同交渉対象を委託業務等に拡大するための検討を行った。	<自己評価設定理由> 従来から県立病院と共同交渉を行っている 医薬品、診療材料、災害備蓄品に加え、委 託業務等を対象とすることについて協議・検 討を行った。 また、県立病院が医療総合情報システムを 更新したことを受け、更新システムの運用 状況について情報を収集し、将来的連携へ 向けた検討を行うなど、様々な場面で連携 強化が図られたため。	A
		・県立病院の医療総合情報システムとの将来的な医療情報 連携の検討	・県立病院の医療総合情報システムが更新されたことを受け、更新システムの 運用状況について情報収集するなど、将来的連携について検討を行った。		

	<u> </u>		年度計画に係る業務実績・法人の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績自己評価
(2) 収入の確保 ア入院・外来患者数の増加や 病床利用率の向上、特徴を発 揮した医療の推進などにより、 収益力の強化を図ること。	・急性期機能の発揮と特徴ある医療の推進により、新規入院・新規外来患者数の増加や	(2) 収入の確保 ア 収益力の強化 分類規入院・外来患者数の増加に取り組む。 ・地域医療機関との連携強化	*入院収益はO. 1%減、外来収益は4. 4%増となった。 *前年度に比べ、病床利用率は2. 7ポイント減少した。 *平均在院日数は13. 0日となり、O. 3日短縮した。
	病床利用率の向上に取り組む。	による新規入院・外来患者数の増加 ・救急患者受入の促進による 新規入院患者数の増加 ・検診・外来での診察を経た新 規入院患者数の増加 ○適切なベッドコントロールに よる病床稼働率の向上に取り	H30   H29   H28   H27     入院収益
		組む。 病院全体での病床の弾力的 運用 ・重症度、医療・看護必要度と DPC入院期間設定を勘案した 適切な在院日数管理	入院診療単価     57,855円     55,931円     56,059円     54,791円       財務     H30     H29     H28     H27       外来収益     1,511,819     1,505,224     1,421,073     1,407,647       千円     千円     千円     千円     千円       外来患者延数     106,494人     109,681人     110,766人     110,928人       新規外来患者数     13,782人     13,593人     13,988人     14,594人       外来診療単価     14,188円     13,717円     12,815円     12,401円
		○手術・リハビリテーション収 益の増加による入院診療単価 の向上	・リハビリモーション部門では、リハビリ職員1日当たり平均実施単位数の向上に取り組んだ。         H30 H29 H28         リハビリ職員1日平均実施単位数 18.0単位 17.6単位 16.7単位
	向に機敏に対応し、迅速な施	○平成30年度診療報酬改定 に伴う7:1入院基本料の新基準について、病院を挙げて達成を目指す。	・7:1入院基本料の新基準を達成するため、毎週、管理者会議において「重症度、 医療・看護必要度」の状況を確認するとともに、各種対策を決定し、病院挙げて 取り組んだ。     ・8月、7:1入院基本料の新基準を達成し、国に「一般病棟入院基本料(急性期 一般入院料1)」の届出を行い、受理された。
		○「経営改善チーム」により、 新たな施設基準の取得や 様々な収益確保策を検討す る。	・次の新たな施設基準を取得した。
			【平成30年度実績】 <u>救急搬送患者の入院率</u> 60.9%

ſ				年度計画に係る業務実績・法人の	)自己評価
	中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度) 	業務実績	自己評価
		【1日平均新規入院患者数】 平成27年度実績値 16. 1人 → <u>平成32年度目標値 17.</u> 4人		1日平均新規入院患者数 16. 2人	
			DPC適用患者のうち入院期間 I + II の患者数割合65.0%	DPC適用患者のうち入院期間 <u>I + II の患者数割合 62. 8%</u>	
		【稼働病床利用率】 平成27年度実績値 76. 9% → <u>平成32年度目標値 80.</u> <u>0%</u>	<u>稼働病床利用率 77. 2%</u>	<u>稼働病床利用率 75. 4%</u>	
			<u>手術件数 2, 350件</u>	<u>手術件数 2. 199件</u>	
			リハビリ職員1日平均実施単 位数 17.0単位	<u>リハビリ職員1日平均実施単位数 18.0単位</u>	
	<b>ك</b> 。	・診療報酬の請求漏れや減点	化し、診療報酬の請求漏れや	・請求漏れ対策として、医事委託業者の担当者が病棟毎に毎週1回のラウンドを実施した。 ・指導料等の算定実績の提供と、算定漏れの可能性等を医師・看護師等に伝達した。	

			年度計画に係る業務実績・法人	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
(3) 費用の抑制 ア 医薬品や診療材料等の購入について、県立病院との共同交渉の促進や在庫管理の適正化等により、費用の抑制に努めること。	(3) 費用の抑制 ア新たな費用削減策の企画・立案 ・支出削減推進チームを充実 し、各職種の横断的チームにより、具体的な費用削減策を 検討する。	(3) 費用の抑制 ア新たな費用削減策の企画・立案 〇院内全体でコスト意識の向上を図るため、各所属においてコスト削減に向けた改善に取組み、優良事例については院内で共有する。	<ul><li>・7月~8月、各診療科・部門ヒアリングにおいて、業務改善策(業務効率化・コスト削減)の実績と提案について聞き取りを実施</li><li>・9月、事務局職員から業務改善策の実績と提案の聞き取りを実施</li></ul>	<自己評価設定理由> 材料費は減少したが、経費の増加により、 総費用が大幅な増加となったため。  <課題及び改善策> 正規看護職員の確保等による人件費的経費の支出抑制	С
		○材料費については、「経営 改善チーム」において増加要 因を分析し、対応策を検討す る。	・材料費増加要因の分析を進め、個別・具体的な対応策を検討し、カテーテル 手術用材料、手術室用ガウン等を安価なものに変更した。		
	イ 医薬品や診療材料等の購入 ・県立病院との共同交渉を充実するとともに、在庫管理の精度を向上し費用を抑制する。	イ 医薬品や診療材料等の購入 ○県立病院と連携して医薬 品・診療材料購入に係る共同 交渉を充実するとともに、在庫 管理の精度を向上し、費用を 抑制する。	<ul> <li>・医薬品と診療材料(一部)については、県立3病院との共同交渉を継続実施した。</li> <li>・医薬品については、平成29年度に引き続き、県立3病院とともに、全国的な医薬品価格情報を有するコンサルタントに卸売業者との価格交渉を委託した。</li> </ul>		
		○診療材料について、より安価な同種同効品の切り替えなどによる費用削減に取り組む。	・カテーテル手術用材料等を安価なものに変更した。		
イ契約方法について、透明性 や公平性の確保に努めるとと もに、定期的な見直しを行い、 費用の節減や事務の簡素化 を図ること。	・競争入札により透明性や公 平性を確保するとともに、複数	ウ 多様な契約方法の導入 ○競争入札により透明性や公 平性を確保するとともに、複数 年契約等の多様な契約方法を 導入するなど、費用の節減や 事務の簡素化に取り組む。	・物品購入等において競争入札の実施を基本とし、建物・設備関係等で随意 契約となる場合についても、可能なものは業者と交渉し複数年契約を行い、 コスト低減に努めている。		

中期目標	第4 財務内容の改善に関する事項
中期計画·年度計画	第3 予算(人件費の見積りを含む)、収支計画及び資金計画

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
1 経常収支比率 収益力の強化や業務運営の 効率化を図ることにより、中期 目標期間の最終年度までに経 常収支比率100%以上を達 成すること。	年度までに100.0%以上を	経常収支比率 100.0%	【実績】 <u>平成30年度</u> 経常収支比率 98. 2%	<自己評価設定理由> 4年連続で経常収支比率が100%未満となったため。  <課題及び改善策> 収益の増加と費用の削減	O
模の公立病院と比較する等に上い適切な数値目標を定め		<u>平成30年度</u> 医業収支比率 98.0%	<u>平成30年度</u> 医 <u>業収支比率 96.0%</u>		

			年度計画に係る業務実績・法人の自	1己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
3 その他の経営指標 収入の確保や経費削減に係るその他の経営指標につい て、同規模の公立病院と比較する等により適切な数値目標を定め、達成すること。	1 予算(平成29年度~平成32年度) (単位:百万円)  区分 金額 収入 営業収益 27,061 医業収益 24,353 その他医業収益 2,708 営業外収益 1,448 運営費負担金収益 588 その他営業外収益 860 資本収入 4,235 短期借入金 3,200 長期借入金 1,035 その他資本収入 0 その他の収入 0 計 32,744 支出 営業費用 26,454 医業費用 26,398 給与費 16,332 材料費 5,813 経費 4,041 研究研修費 212 一般管理費 56 営業外費用 22 資本支出 5,151 建設改良費 1,631 長期借入金償還金 320 その他の支出 5,151 建設改良費 1,631 長期借入金償還金 320 その他の支出 31,627 (注)給与改定及び物価の変動は考慮していない。 予算:地方独立行政法人の業務運営上の予算を、現金主義に基づき作成するもので、県の予算会計に該当するものである。 く人件費の見積り〉第2期中期目標期間中の総額を『17,138百万円』とする。なお、当該金額は、法人の役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。 <運営費負担金のルール〉長期借入金元利償還金に充当される運営費負担金は、経常費助成のための運営費負担金とする。	(単位:百万円)    区分 金額     収入	1 決算(平成30年度)  区 分 金額 収入  営業収益 6,627  医業収益 5,953 その他医業収益 674 営業外収益 152 運営費負担金収益 108 その他営業外収益 44 資本収入 1,236 短期借入金 800 長期借入金 436 その他の収入 0 計 8,015 支出  営業費用 6,697 医業費用 6,690 総持費 1,465 経費 1,075 研究研修費 48 一般管理費 7 営業外費用 2 資本支出 1,410 建設改良費 609 長期借入金債還金 0 その他の支出 0 計 8,109	

中期目標				年度計画に係る業務実績・法人の自	1己評価
(単位:百万円)	中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
総利益   228   総利益   2   総利益   2   総利益   2   総利益   2   総利益   Δ 128   128   (注) 給与改定及び物価の変動は考慮していない。 収支計画: 地方独立行政法人の業務の収支計画を、発生 主義に基づき明らかにし、純利益又は純損失と いう形で表すもの いう形で表すもの		区 分 金 額 収益の部 営業収益 27,216 医業収益 24,353 その他医業収益 24,353 その他医業収益 1,552 補助金収益 1,448 運営費負担金収益 588 その他営業外収益 860 臨時利益 4 計 28,668 費用の部 営業 費用 28,414 医業費用 28,358 給与費 17,087 材料費 5,813 経費 4,041 減価償却費 1,205 研究研修費 212 一般管理費 56 営業外費用 22 臨時損失 4 計 28,440 純利益 228 目的積立金取崩額 0 総利益 228 (注)給与改定及び物価の変動は考慮していない。 収支計画:地方独立行政法人の業務の収支計画を、発生主義に基づき明らかにし、純利益又は純損失と	Y	区 分 金 額 収益の部 営業収益 6,680 医業収益 5,953 その他医業収益 619 資産見返負債戻入 53 補助金収益 55 営業外収益 210 臨時利益 0 計 6,998 費用 の部 営業費用 7,117 経費 1,465 経費 1,075 減価償却費 266 研究研修費 48 一般管理費 7 営業外費用 2 臨時損失 0 計 7,126	

			年度計画に係る業務実績・法人の自	自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	3 資金計画(平成29年度~平成32年度) (単位:百万円) 区分金額 資金収入 業務活動による収入 27,758 診療業務による収入 24,353 運営費負担金による収入 704 その他の業務活動による収入 0 運営費負担金による収入 0 運営費負担金による収入 0 運営費負担金による収入 1,035 をの他の投資活動による収入 3,200 長期借入による収入 3,200 長期借入による収入 1,035 その他の財務活動による収入 0 前事業年度からの繰越金 2,373 計 34,366 資金支出 業務活動による支出 16,332 材料費支出 5,813 その他の業務活動による支出 4,331 投資活動による支出 1,309 有形固定資産の取得による支出 1,309 無形固定資産の取得による支出 1,309 無形固定資産の取得による支出 1,309 無形固定資産の取得による支出 3,200 長期借入金の返済による支出 3,200 長期借入金の扱済による支出 3,200 長期借入金の返済による支出 3,200 長期借入 3,200	3 資金計画(平成30年度) (単位:百万円) 区分金額 資金収入 業務活動による収入 6,861 診療業務による収入 5,044 運営費負担金による収入 663 投資活動による収入 0 運営費負担金による収入 0 運営費負担金による収入 0 運営費負担金による収入 0 をの他の投資活動による収入 0 をの他の投資活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による収入 520 をの他の財務活動による支出 6,609 総各与費支出 4,088 材料費支出 1,456 をの他の業務活動による支出 1,065 投資活動による支出 582 無形固定資産の取得による支出 582 無形固定資産の取得による支出 582 無形固定資産の取得による支出 903 短期借入金の返済による支出 903 短期借入金の返済による支出 903 短期借入金の返済による支出 0 をの他の財務活動による支出 103 翌事業年度への繰越金 2,338 計 10,432 (注)給与改定及び物価の変動は考慮していない。資金計画:地方独立行政法人の業務運営上の資金収入・資金支出、活動区分別(業務・投資・財務)に表すもの	3 資金実績(平成30年度) (単位:百万円) 区 分 金額 資金収入 業務活動による収入 6,815 診療業務による収入 156 その他の業務活動による収入 104 投資活動による収入 0 運営費負担金による収入 0 その他の投資活動による収入 1,236 短期借入による収入 800 長期借入による収入 436 その他の財務活動による収入 436 その他の財務活動による収入 436 その他の財務活動による支出 6,691 総与費支出 4,156 材料費支出 4,156 材料費支出 4,156 材料費支出 1,470 その他の業務活動による支出 1065 投資活動による支出 121 有形固定資産の取得による支出 118 無形固定資産の取得による支出 118 無形固定資産の取得による支出 3 財務活動による支出 906 短期借入金の返済による支出 906 短期借入金の返済による支出 800 長期借入金の返済による支出 106 翌事業年度への繰越金 2,621 計 10,339	

中期目標	第4 財務内容の改善に関する事項
中期計画·年度計画	

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
	・賞与の支給等、資金不足が	1 限度額 800百万円 2 想定される事由 ・賞与の支給等、資金不足が 生じた場合の対応 ・偶発的な出費増への対応	・前年度に引き続き、計画的な資金管理により、短期借入金の調達金額を800 百万円に抑えることができた。	<自己評価設定理由> 前年度に引き続き、短期借入金の調達額を 800百万円に抑えることができたため。	В

中期目標	第4 財務内容の改善に関する事項
中期計画·年度計画	第5 重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときの計画

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価		
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
	予定なし(7千万円以上の不 動産(土地2万㎡以上)等)	予定なし(7千万円以上の不動産(土地2万㎡以上)等)			

中期目標	第4 財務内容の改善に関する事項	
中期計画・	9 第6 剰余金の使途	

			年度計画に係る業務実績・法人の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	機器等の購入	・病院建物の整備・修繕、医療機器等の購入 ・人材育成及び能力開発の充 実等		

中期目標	第4 財務内容の改善に関する事項
中期計画	第7 料金に関する事項

		年度計画に係る業務実績・法人の自己評価		
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
	1 料理として、			

中期目標	第5 その他業務運営に関する重要事項
中期計画	第8 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項
年度計画	第7 その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価
施設及び設備について、医療技術の進展や地域の医療需要、費用対効果等を総合的に勘案し計画的に整備すること。	関する事項 ・施設及び設備のに、医療技術効果にといては、医療技術効果にといては、医療技術効果にといる。 ・高額の施設、設備及及が負担も一方のでは、長期間の施設、ははも十分のでのでを機器ののでは、とのでは、とのでは、とのでは、とのでは、人のでのでででででででででででででででででででででででででででででででで	関する事項 施機を行うとともに、、係進等との 施設を行うととを療技術効果を 一般を行うとと医療技術が発展を 一般を行うとと医療を 一般を行うとと医療を 一般をでする。 一般を一般を一般を一般を 一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一般を一		(自己評価設定理由〉施設及び設備の適切な維持管理及び計画的整備を行い、概ね年度計画に基づき整備が行えたため。 B

			年度計画に係る業務実績・法人の	の自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画(平成30年度)	業務実績	自己評価	
の向上 (1) 良好な職場環境づく り 職員間のコミュニケーションを 図り、良好な職場環境づくりに 努めること。	り ・職員間のコミュニケーション を積極的に図るとともに、スト	の向上	・職員間の交流を深めるため、レクレーション委員会において、前年度の職員アンケート結果を活用し、秋・春の行事を企画、実施した。 ・毎月発行する「院内だより」で新入職員を紹介するなど、職員間のコミュニケーションを図るべく情報発信に努めた。	<自己評価設定理由> レクレーション行事の実施、ストレスチェックの実施等により、良好な職場環境づくりを推進することができたため。	В
		な運用などにより、メンタルへ ルス対策を充実するとともに、 休業した職員の職場復帰を支 援する。	<ul> <li>・メンタルヘルス対策として、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを実施した。</li> <li>・専門機関に委託し、</li> <li>①毎月1回の院内でのカウンセリング</li> <li>②専門機関事務所でのカウンセリング</li> <li>③職場復帰時の相談支援</li> <li>等を実施した。</li> <li>・臨床倫理委員会と合同で外部有識者を含めたハラスメント相談対応チームにおいて、ポスター掲示等の啓蒙活動等を行った。</li> </ul>		
育児支援体制の充実を図るなど、職員が安心して働くことの	児支援制度の充実に取り組	(2) 就労環境の整備 ○院内保育所の運営を充実 し、育児を行う職員の就労環 境を整備する。	・院内保育所利用者の利便性を高めるため、早朝保育の実施及び基本保育時間の延長(H28~)を継続するなど、看護職員の育児支援体制の充実を図った。	<自己評価設定理由> 院内保育所の運営充実、業務運営の改善及 び効率化、職員健康診断の充実等により、就 労環境の整備を図ることができたため。	В
	務時間の縮減など、適切な労働時間の管理に取り組む。 ・定期健康診断の受診を促進するなど、職員の健康管理対	時間の管理に取り組む。 ○定期健康診断の受診を促	<ul> <li>・業務運営の改善及び効率化に取り組むとともに時間外勤務時間など、労働時間の適正な管理に努めた。</li> <li>・定期健康診断を6月と12月の2回行い、職員の受診を促進した。</li> <li>・全職員を対象にインフルエンザの予防接種を行った。</li> <li>・職員健康診断のオプションとして、45歳以上の職員を対象に頭部MRI・MRA検査を追加した。</li> </ul>		
		3 積立金の処分に 関する計画 <sup>予定なし</sup>			